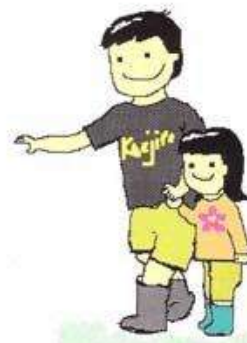


小網代の森と干潟を守る会

小網代 森と干潟つうしん



モリちゃんとかたくん干潟デビュー

森も海も干潟も 奇跡の集水域生態系を未来の子どもたちへ

小網代の森と干潟を守る会

〒238-0111 神奈川県三浦市初声町下宮田 261-5

代表 高橋 伸和 E-mail: info@koajiro-higata.com

URL: http://www.koajiro-higata.com

年会費：一般会員 ¥1000 賛助会員 ¥5000 (入会金不要 7月～6月)

郵便振替：00260-4-21569 コアシロノモリトヒガタマモルカイ

小網代の森は龍の森

龍の森

朽ち木を乗り越え
斜面にしがみつくようにして
下った谷もある
初めての道に目を凝らしなが
ら
秋中探し回った
奇跡の森の護り主

今 優しい竜は
新しい森を知り
私たちの前に姿を現した
心臓に硬い玉を抱き
空に向かっ 跳躍する
小網代は
竜の棲む森

中井由実



← 宮本美織さんの作品

祖父川清治さんの
コレクションから



鈴木清市さん
陶芸初挑戦の作品



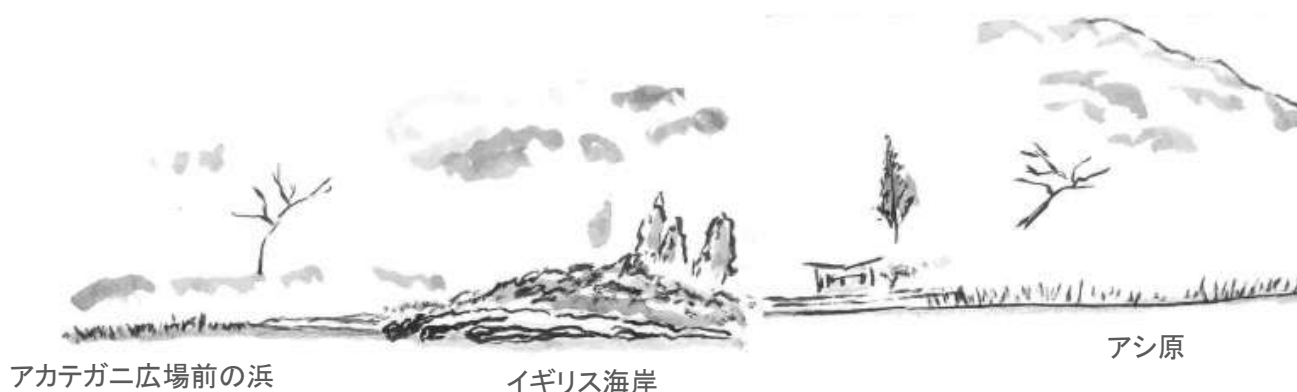
ブータンの国旗



三浦円福寺の土鈴

小網代湾の干潟について

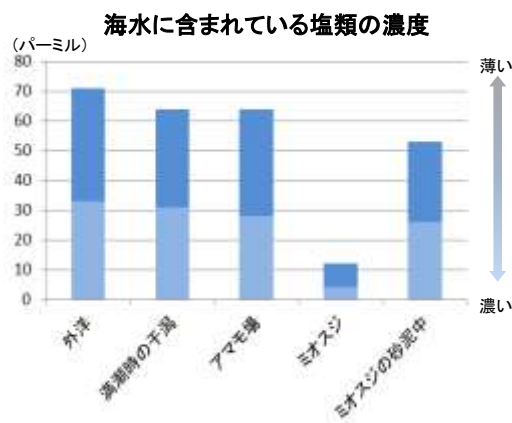
小網代湾の干潟周辺は狭い範囲に非常に多くのカニが暮らしていることが岸先生の本などで紹介されています。これは干潟周辺の生態的環境の多様性のためであると解説されています。干潟は自然の生態系では湿地生態系に含まれています。湿地の定義は「自然のもの人工的なものも含み、また永続的なものか一時的なものか、水が滞留しているか流れているか、あるいは淡水であるか汽水であるか、塩水であるかにかかわらず、湿原や沼沢地、泥炭地、あるいは河川や湖沼などの水域で、水深が干潮時に6メートルを超えない海域を含む」とされています。この湿地生態系の保護、保全のために1971年イランのカスピ海の湖畔ラムサールで開かれた国際会議で採択された条約がラムサール条約「特に水鳥の生息地として重要な湿地に関する条約」です。干潟とは潮が満ちているときには海面の下に沈み、潮が引くと干上がり陸地になる砂や泥が広がっている場所のことを言います。干潟は河口干潟、前浜干潟、入り江干潟、潟湖干潟などさまざまなタイプに分けられています。また干潟の底質により砂干潟、泥干潟、混合干潟などと言うこともあります。小網代の干潟はタイプとしては入り江干潟ですが、小さな浦の川の河口にできた小さな河口干潟とも考えられます。また干潟の底質は砂干潟、混合干潟、泥干潟とさまざまな場所があり、干潟上部には転石帯もあります。三浦半島には小網代の干潟(およそ4ヘクタール)と同じくらいの干潟はいくつかありますが、森からエコトーンにより干潟、海までつながっている場所にはありません。小網代湾の干潟と海には森からおもに浦の川を經由してたくさんの栄養豊富な淡水が流入します。したがって小網代湾の塩分濃度は相模湾の外洋よりも低くなっています。外洋の塩分濃度は33～38パーミルですが、満潮時の干潟では31～33パーミルです。アマモ場では最低28パーミル、最



高36パーミル、平均32～33パーミルです。干潮時河口の石橋下流のミオスジでは季節にもよりますが4～8パーミルと非常にあまい海水となりますが、ミオスジの砂泥中では表面の流れほど低濃度となることはありません。(ミオスジの流れの中でも底近くでは26～27パーミル)通常海水に含まれている塩類の濃度をあらわすには海水1000gの中に含まれている塩類(約68%が塩化ナトリウム)の総和を千分率で示します。たとえば、1000gの海水に35gの塩類が含まれているときには塩分35パーミル、または塩分35といひ、35‰(3.5%)と書きます。(食塩ではティースプーン1パイは約5グラム、大きなスプーン1パイなら約15グラム)通常海岸に暮らす生き物の生息域は温度、底質、潮汐、海流、塩分濃度、光、栄養塩類、溶存酸素濃度など多くの要因によって影響を受けます。

さまざまな底質、塩分濃度そして多様な環境を作るアシ、アイアシ群落、干潟から続く岩場など小網代湾の干潟周辺の生態的環境が多様なことはそこに暮らしているさまざまな種類の生き物と出会うことで良くわかります。

小倉 雅實





NPO 法人小網代野外活動調整会議

トラスト緑地保全支援会員 大募集!!

小網代応援団

昨年7月に神奈川県より土地取得完了のニュースが流れ、「ほお～、小網代の森、全面保全されて良かったね。もう安心だね。」と思われた、いるか丘陵ファンの方、たくさんいらっしゃいます。行政や関係各位のご努力で開発の危機はなくなりました。と同時に、新たな保全の時代がスタートしました。

小網代の森はずっと田んぼや雑木林として人間が利用してきた森でした。それがリゾート開発の危機とともに放置されて、うまい具合に自然帰りし、生きものの楽園となったわけです。しかし、それも40～50年経ち、最近では樹木が伸長しすぎて倒壊したり、日照が極端に悪くなったり、谷を流れる川底が浸食されて水位が下がり乾燥化を招いたり、その結果有害外来植物が繁茂したり、と自然環境への悪い影響が見過ごすことのできない状況になってきてしまいました。ふたたび美しい生きもののあふれる森を取り戻すには人間の力が必要とされています。保全されたことにより、今それが可能になったのです。

小網代に限らず、都市近郊の緑地はせっかく保全されたものの、そのまま何も管理をしないでいると、うっそうとした暗い場所、災害や犯罪を呼ぶ危険地帯、生物多様性の乏しい自然となってしまうと言われます。開発されることはなくなったから安心、公共の土地になったから誰でも自由にその豊かな自然を享受できる、放っておけば自然は自ら回復する、それらが誤りであることに誰もが気が付き始めました。しかし、緑地の管理には人（専門的な知識や技能を持った人材、若いパワー）の力はもちろん、人件費や機材、消耗品の購入などにお金がかかります。

私たちがかねてから応援し連携してきた(財)かながわトラストみどり財団もこの問題に直面し、保全された緑地をより健全で豊かな自然環境にするために、会員の皆さまに特定のトラスト緑地の保全をご支援いただける「トラスト緑地保全支援会員制度」を2008年1月より開設しました。ありがたいことに、小網代の森もその支援を受けるモデル緑地の一つに指定されました。小網代の森の保全活動を応援したい皆さまのお気持ち、ストレートに活動の資金となる、画期的なシステムです。私たちはこのシステムを最大限に活用させていただくことにしました。現在はトラスト緑地交付金という形で当NPO法人が支援を受け、湿地回復、河川の日照回復、ビオトープ整備などの管理活動を行っています。支援会員数によって交付金が決定されるため、まだまだ資金は不足しています。森が一般公開される2014年までには小網代支援会員700名(!)を目標に、皆さまに応援を呼び掛けています。

ナショナルトラストの発祥の地イギリスでは今、Bringing our places to lifeという言葉を使い、取得後の土地、建造物を保全し、次世代に引き継ぐことに多くの資金が投入されています。神奈川でも、このナショナルトラストの精神が真に根付き、市民の志で身近な緑が守られることを願います。



河川の日照回復作業



流路の整備による湿原回復

トラスト緑地保全支援会員特別観察会



昨年の夏より、新しい試みを始めました。小網代の森を応援してくださるトラスト支援会員の皆さまに、今回特別にかながわトラストみどり財団からお知らせしていただき、干潟の観察会を実施しました。2011年7月3日、14名の支援会員のご参加をいただきました。



まずは2グループに分かれ、滞筋に沿って、干潟の生きものの観察をしました。チゴガニの可愛らしいダンス、無数にうごめくヤドカリ、ウミニナに目をみはりました。日頃あまりじっくりと観ることとのない貝類にも着目すると、意外にも非常に珍しい貝が生息していることも知りました。また、3月の大地震による津波で、海底の土砂がかなり持ち去られており、カニの幼体が少ない、アマモが流された、などの話を聞き、干潟から続く海の底にも思いを馳せました。



続いてあらかじめスタッフが用意した水族館で、詳しいレクチャー。今日出会ったカニはなんと25種類！たくさんの種類のカニが住み分けていることに驚き、あらためて小網代の干潟の素晴らしさを感じていただけたのではないかと思います。昼食後は森の管理の様子もご覧いただきました。

そしてその後、今回ご参加いただいた皆様にも呼び掛け、「小網代応援団」を組織しました。参加条件はひとつ、トラスト緑地支援会員小網代組であること！「小網代応援団」に登録していただいた方には、特別観察会のご案内をいたします。年に数回、森と干潟の様子をしっかりと見守り、楽しみながら、大好きな森を育てていきましょう。



イラストは江良弘光「小網代の谷のカニ図鑑」より

なお、トラスト緑地支援会員になるには、トラスト財団のパンフレットにある申込書に記入して郵送、またはインターネットでトラスト財団のホームページから申込をすることができます。普通会員（大人 2000円、中高生 1000円、小学生 500円、家族 3000円）+支援会員（3000円）の会費が必要です。支援したい緑地はぜひ「小網代の森」をお選びください。よろしくお願いたします！

くわしくはトラスト財団ホームページ <http://ktm.or.jp/>をご参照ください。

また「小網代応援団」入団希望者は NPO 法人小網代野外活動調整会議までお問合せください。（TEL：045-540-8320 E-mail:koajiro@koajiro.org）

（NPO 法人小網代野外活動調整会議 浪本）

随想 小網代てんてん ①

森に向かつて

須田漢一

相模湾に口を開いた小網代湾の船着き場から、東の方を見る。何艘かのヨットが浮かぶ湾の向こうに、ももこと黄緑色の若葉が盛り上がっている。

小網代の森である。

ここからは分らないが、そこには落葉広葉樹のコナラやエノキやミズキもあり、常緑樹のウラジロガシやマテバシイなど、樹の高さや葉の厚みや色、そして花などの咲いたそれぞれ異なる樹木たちが、いま、色彩のコンサートを開いているに違いない。

森の中の谷状の地には、周りの台地から、落ち葉や土の養分を含んだ流れが本流に集まり、あちらこちらを蛇行しながら瀬や溝を作り、河口から干潟——そして湾に流れ入る。その流域には小魚や虫やそれを餌にするカニやカエルやヘビもいる。空にはサギやタカの類などが獲物を狙っている。：そんな想像も許されてよい。

そこは郷愁の地ではない。今を生きている森である。2万5千の地形図には、まるで空

白地帯のように、川の記号はおろか道を示す破線すら書かれていない。迂闊に踏み込んだら、迷宮の森を右往左往しかねない。

人が生きていて実感するのは、食物や物に満たされているだけではない。憧れ、希望、目標、といったものがなければ、足が地に着いた生き方はできない。熱帯雨林、砂漠、アルプス山脈、ヒマラヤ山脈、南極、北極、といったアドベンチャーの地に挑戦することも、人には必要かも知れない。が、いま立っている土地——地球全体から見たら一握りにも値しないような、足元の自然が大事なのではないだろうか。私たちは、その中で毎日を暮らしているのだから、そこが快適であることがまず第一である。

しかし、高度経済成長時代を境として、田が減り、畑や草原が激減し、子どもの頃まわりにはいたバッタやクワガタムシやカブトムシやトンボや、カエルやダボハゼやソウメンコ（ウナギの稚魚）といった生きものが、少なくなったり、姿を見せなくなったり。しよせん人間は生物の一員であり、その仲間として生きさせて貰っているのに、何か生きものたちを無理矢理に追い遣ってしまったような、後ろめたさを感じる。小網代の森には、そうし

た失われたものに出会い、時間を忘れて浸り切れる何かがあるに違いない。

こんなことを思うのは、ヒトが他の生きものを犠牲にして、文明や文化を造ったそのずっと以前の原点に立ち返れば、採集狩猟生活をしながら、自然の為すリズムの中で、他の動物とそれほど変らぬ生き方をしていた、そのDNAが今でもヒトの身体には残っていて、草木の茂った森や水辺をひたすら求めているからに違いない。

そう、近いうちに、森を知っている人たちに教えを乞うて、小網代の森に入ろうと思う。森を点々と歩き、時には森から抜け出して、周りを転々と巡る。きっと、そこには新たな出会いと別れがあるかも知れない。

まずは森に向かつて、一步を踏み出そう。

（2009、6、3、三浦道寸の墓所に詣でる途中で）

小網代の森と干潟を守る会の活動

- 12/4 かながわのナショナル・トラスト 25周年記念シンポジウム（慶応義塾大学 日吉キャンパス）に参加。養老孟司氏、岸由二氏のトークセッションあり。柳瀬博一氏の進行で大いに盛り上がりました。
- 12/18 NPO 法人小網代野外活動調整会議ボランティアウオーク支援（小倉）参加者なしのため、応援団7名の案内を支援。
- 1/15 NPO 法人小網代野外活動調整会議ボランティアウオーク支援（伸）1名案内して去年の落とし物（水筒のキャップ）を発見
- 1/21 スタッフ会議 南下浦市民センター
- 1/27 NPO 法人小網代野外活動調整会議と意見交換会（綱島）
- 2/3 TBS ラジオの柳瀬博一ターミナルに岸由二氏が出演、流域思考を語る
* <http://www.tbsradio.jp/tmn/> から放送内容をダウンロードできます

ご寄付ありがとうございます

盛野雅子さん、浪本晴美さん、祖父川精治さん、関口広隆さん
ありがとうございました

小網代カレンダー完売御礼

オリジナルカレンダー2012 おかげさまで完売いたしました
手に入らなかった方、ごめんなさい。

会員専用ホームページ こんな方はお問い合わせください

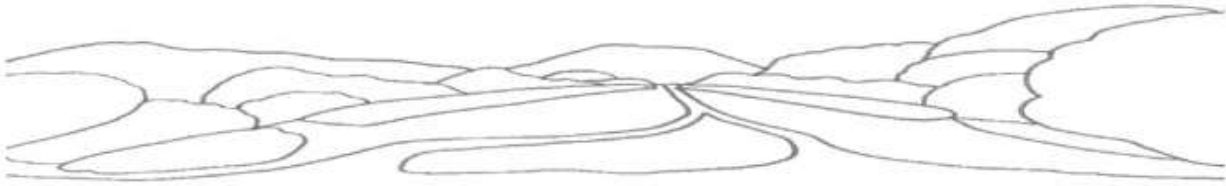
- 会員専用ページの申し込みをしたけれど、まだIDとパスワードが届かない
 - ▶ メールの不着等の事故が考えられます。広報担当へお問い合わせください。
- 会員専用ページを申し込んで、紙の郵送を中止した筈なのに紙版つうしんが送られてくる
 - ▶ 確認のため、お申込みをされた次の号まで紙版を郵送させていただいています。IDとパスワードが届いていて、つうしん発行のお知らせも届いているのに、郵送が続く場合は広報担当へお問い合わせください。

お問い合わせ: kohou@koajiro-higata.com（小網代の森と干潟を守る会 広報担当・はし）

※ 会員専用ページの利用はいつでも申し込むことができます（申し込みには小網代の森と干潟を守る会の会員であることが必要です）

干潟のゆりかごの小さな住人 その3

ヤドカリさん、お住まいとお友だち



ジポーリン菜穂子

干潟で、動いている貝を見かけることがありますね。生きている貝、発見！！と思ってしまううちは、まだまだ、干潟ビギナーですねえ。そうです。ほんとうは、ヤドカリさんです。日本中、世界中、あちこちの干潟や海岸で見られますね。裸ん坊で生まれてきて、おとなになるまでに住まいを見つけます。住まいは主のいなくなった貝殻です。それで、宿借り。

たいてい、1対のハサミと2対の脚（歩脚というそうです）を、お宿の貝から出して、歩いています。そして、住まいの中にもう2対、脚があるのです。これで、貝殻をつかんでいるような。全部あわせて脚が5対。それで、十脚甲殻類。エビやカニも同じ仲間です。ちがうところは、最後の脚がとても小さく、体に隠れてしまっていること。そして、お腹の部分が少しよじれていること。テレビで見るタラバガニ、（食卓で見ると、もちろんいらっしやるでしょうね！）よく見ると、ほかのカニとちがって、脚が6本のように見えます。最後の脚が隠れているのです。ですから、ヤドカリの仲間なのだそうです。それに、タラバガニのメスのお腹も、ひっくり返してよく見てみると、ヤドカリのように、ちょっと曲がっているそうですよ。

卵から孵化したばかりのヤドカリの幼生は、ゾエア。そして、脱皮をくりかえし、少し大きくなると、グラウコトエ幼生。* さらに、脱皮をして、親に近い形の稚ヤドカリになります。このときに住まいの貝殻を見つけ、背負って生きていきます。この間にも、脱皮は続け、大きくなった体にあうように、さらに大きな貝殻にリハウスするのです。

グラウコトエは、おそらく、ギリシャ神話の海の神様のひとり、グラウコスからきています。もともと人間で、漁師だったのですが、死んだ魚も生き返る薬草を見つけ、自分でもその薬草を食べてみたところ、みるみるうちに足が魚のしっぽに代わり、体中に力がみなぎり、海が俺の生きる場所だあ！と海にもぐり神様になってしまったそうです。姿としては、逆半魚人ですね。グラウコスは、古代ギリシャのコインや、絵画にも見られます。たとえば、フランス・バロックの画家、ローラン・ド・ラ・イール(1606-1656)の「グラウコスとスキュラ」。グラウコトエ幼生がグラウコスに似ていることといたら。「自然は芸術を模倣する（オスカー・ワイルド）」のでしょうか。** この作品はロサンジェルスのパール・ゲティ美術館で見られます。盗品美術品を展示していたことで、今でもイタリア政府と係争中だそうです。美術館は2つに分かれており、ひとつはUCLAの近く。もうひとつは、サンタモニカを西に行ったマリブに近い海側です。こちらは、美術館の建物そのものが、古代ローマ遺跡を模したつくりになっているそうです。



ギリシャでは、貝柱のスライスのようなものが、グラウコスの名前で売られているようです。試食してみたいものですね。

コラージュという手法を駆使した絵本作家、『はらぺこあおむし』でおなじみ、エリック・カールの作品に『やどかりのおひっこし』があります。イソギンチャクを始めとした海の生き物に次々と出会い、仲良く暮らしていきます。しまいには、そうやって仲間と住んでいる家も、小さくなってしまい、その家を、後輩に譲り、大きな貝殻に引っ越すのです。住み慣れた所に別れを告げ、新しい世界に飛び出していく勇気を教えてくれます。アメリカでは、小学校にあがる前に必ずといってよいほど、幼稚園で読み聞かせをする絵本です。

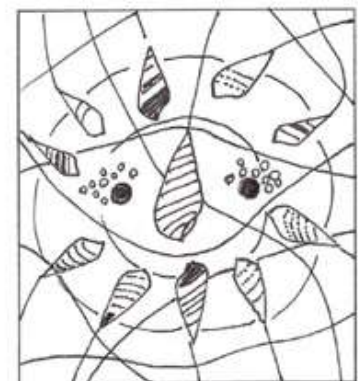
この本にでてくるイソギンチャクとは、現実でもヤドカリは、共生をするようですね。イソギンチャクはヤドカリについて、いろいろな場所に連れていってもらえるし、ヤドカリにとっては、イソギンチャクが敵を怖がらせてくれるでしょうから。絵本のヤドカリと違い、古い貝に付いていたイソギンチャクを、新しい貝に移し替える、ということもするヤドカリもいるようです。

須磨の水族園の園長先生の奥様はヤドカリと共生して、貝殻に引っ越しに住む、小さな小さなエビを見つけられましたよ。ヤドカリに宿借りするのです。クレナイヤドカリテッポウエビ。おうちにいれて・くれない？ヤドカリ（さん）、テッポウエビ（です）・・・ですね。ちがいます、紅（くれない）色をしたエビです。このエビは貝殻から外出もして、そして、帰ってくるのだそうです。そのとき、はさみを上下にノックするのだそう。「おうちにいれてくれない？」そして、貝の中に入れてもらいます。コミュニケーションがきっと成立しているのですね。

ヤドカリ同士のコミュニケーションもあります。ボストンにあるニューイングランド水族館の研究員の方が見つけました。名付けて、ヤドカリ・ソーシャル・ネットワークキング・サービス。大きいヤドカリから順に並んで、順に引っ越しをするのだそうです。欠員連鎖（vacancy chain）というわけです。

このヤドカリ、英語ではハーミットクラブ(hermit crab)。カニ隠者です。たしかに、貝をかぶっている様子は、スターウォーズに出てくるベン・ケノービーに似ているような。隠遁生活を送っていたオビ＝ワン・ケノービーのことです。あるいは、雪舟の「慧可断臂図（えかだんぴず）」の達磨大師にも、似ていますね。恐れ多くも。達磨大師は、中国禅宗（チャン・ブディズム）の宗祖。日本の禅、臨済宗、曹洞宗のもとです。ダルマさんは、面壁九年とって、9年も座禅を続けた達磨大師の姿を模したものです。ダルマはサンスクリット語ですが、漢字では「法」と表されます。南無妙法蓮華経の法です。「真理」とか「教え」の意味ですね。あるいは、「森羅万象」とか、日常の出来事、という意味にもなります。岡本かの子さんは、この「法＝ダルマ」という言葉を、日々の暮らしの中にこそ、真理、それから、救いがある、と教えています。毎日使っているお鍋はお鍋でありながら、仏様の顕現でもある、とも言えるでしょうか。

岡本かの子さんは、きれいでモダンな方だったようで。あるとき、銀座のモナミでお茶を呑んでいたら、身知らぬ紳士から、「どうしてそんなにお若く美しいのか」って驚嘆されたそうです。それに答えてかの子さんは、「大乘仏教を勉強して、その精神を身につけているからです。」・・・そうだったのか！！・・・息子さんが「芸術は爆発だ！」の岡本太郎さんです。さて、ここでクイズです。岡本太郎の作品と言えば？・・・井の頭線とマークシティの二階連絡通路にある「明日の神話」！・・・と答えた方。お若い！万博会場の「太陽の塔」と答えた方々とは、世代間格差でしょうか。



ホリウミニナカ 岡本太郎 びんぼ

さて、貝殻拾いの遊びのことを、英語で、シェリング(shelling)と言います。ドイツの哲学者みたいですね。さて、このシェリング、ほどほどにした方が、よいのでしょうか。貝殻を拾ってしまうと、ヤドカリさんたちが住宅難になる、ということです。なるほど。アメリカのバーモント州にあるガラス工房では、住宅難のヤドカリさんたちのために、手吹きガラスで、貝殻を作って、海岸にばらまいているそうです。シンガポールにある干潟保全活動のグループ名は、「ネイキッド・ハーミットクラブズ (はだかのやどかりたち)」。ヤドカリさんたちが、住宅難で、裸にならないように、気をつけてあげましょう、ということから。もちろん、ヤドカリには、いろんな種類があり色があるので、それと同じように、人間も、干潟で、いろいろな人が集まりましょう、という意味もあるそうです。毎月第二土曜、チェックジャワの干潟を案内してくれるそうです。***

志賀直哉の短編小説にも、ヤドカリが出てきます。きしゃご (キサゴ) の貝殻に入っています。小倉さんから教わったとおりです。その中で、大きくなろうとしたヤドカリが、きしゃごから始まって、サザエの殻、そして、ほら貝にみあうほどの大きさになろうとします。しかし、最後には、目的を見失い、息絶える、というお話です。そして、それを見つけた科学者が、ヤドカリの哲学的苦悶も知らず、これだけの大きさの貝がないから、死んでしまったのだろうと結論づける、というものです。主体的実存は、客観的科学の前になすすべもない、というわけですね。小説の中では、きしゃごが、海岸にたくさんいる様子が描かれています。昔は、本当にたくさんいたのですね。

浪退けば喜佐古おびただしきことよ 阿波野青畝 (あわのせいほ)

江戸時代には、このきしゃご、色を塗って、おはじきにしたそうです。黄表紙によくできます。それから、軒下にあって雨を受ける溝を雨落ちと呼びましたが、そこにも、きしゃごがまかれています。雨風にさらされるわけです。こういう状態を洒落 (しゃれ) と江戸人は考えていました。余分なものがそげ落ちて、無欲でかっこいい、というわけです。そこで、「雨落ちのきしゃご」といえば、「しゃれ」の意味にも使われていました。しゃれてかっこいい、という意味にもなりましたし、また、ダジャレを言う、の意味にも使われました。雨落ちのきしゃご仲間、というグループもありましたよ。なにかっていうと、よりあって、おもしろい話、オチのある話を言い合って、楽しむのです。落語の始まりだろう、と考えられます。江戸のおもしろい話、というと商人文化、と考えられがちですが、そもそもは、おサムライさんたちが始めたこと。そこに、身分を超えて、商人や、いろいろな人たちが加わっていったのです。自由で高踏な雰囲気だったでしょうね。そして、自然との距離感が、私たちより短いですね。忘れつつある原始的な力、現代人の私たちも、取り戻したいものです。

* ゴエアの意味については、『小網代の森の住人たち』の第1話をご覧ください。

** 「芸術は自然を模倣する」といったのはアリストテレス。(『詩学』)

*** 日にちは、変更になることがありますから、いらっしゃる前に確認してください。



参考にした本など：

オウイディウス『変身物語』（岩波文庫）

Eric Carle, A House For a Hermit Crab, (Picture Book Studio, 1986)

(エリック・カール『やどかりのおひっこし』)

亀崎由美子・亀崎直樹(1986) クレナイヤドカリテッポウエビ *Aretopsis amabilis* De Man の生態に関する知見『南紀生物 28』：11-15.

Rotjan, Randy D., J.R. Chabot, & S.M. Lewis. 2010. Social context of shell acquisition in *Coenobita clypeatus* hermit crabs. *Behavioral Ecology* 21(3): 639-646.

岡本かの子『観音経を語る』（大法輪閣、1963）、『仏教人生読本』（中公文庫）

志賀直哉「宿かりの死」『小僧の神様』（講談社 青い鳥文庫）

『咄本大系』（全20巻、東京堂、1975-79）

『阿波野青畝句集』（巴書林、1997）

小倉さんからひとことまめちしき ^ 0 ^



キサゴの仲間にはキサゴ、ダンベイキサゴ、イボキサゴがいます。

キサゴは砂ぼい干潟を好み、イボキサゴは内湾の泥ぼい干潟を好みます。千葉の内房あたりでは生きているキサゴが海岸で見られます。また逗子海岸ではキサゴ、ダンベイキサゴ、イボキサゴの貝殻は拾えます。小網代の干潟にいたとしたらイボキサゴですが、むかしは暮らしていたと記録があります。しかし葉山しおさい博物館の相模湾レッドデータという本ではイボキサゴは相模湾から消滅とされています。イボキサゴは水質浄化力を持っているので小網代の干潟でも見られるようになるとうれしいです。



小網代の干潟にはテナガツノヤドカリというヤドカリがたくさん棲んでいます。

このヤドカリが好む干潟とイボキサゴが好む干潟は大変似ているようです。九州の天草の干潟では干潟に暮らす巻貝の99%がイボキサゴで、ここのテナガツノヤドカリは80%以上がイボキサゴの貝殻を利用しているそうです。しかし小網代の干潟のテナガツノヤドカリは干潟に一番たくさんいるホソウミニナという巻貝の貝殻を95%以上利用しています。東京湾の干潟でもイボキサゴがほとんど見られなくなりました。イボキサゴの貝殻が大好きなテナガツノヤドカリが東京湾の干潟で見られないのはイボキサゴがいなくなったからだと思っている人もいます。でも小網代の干潟のテナガツノヤドカリはホソウミニナの貝殻をたくさん利用しています。干潟の生き物の適応力はすごいです。

『小網代の森の住人たち』ますます絶賛発売中！！



お外遊びは、本当に楽しい。
で、その楽しさをおうちの中でも、味わえたら？
そして、楽しみながら、お勉強もできちゃったら？
そおーんな、いいことがあるかしら。
あるんです！
是非、この本をご一読！
自然を楽しみながら、お勉強もできちゃう本です。

ハイキングの前に、是非！ご一読を！
話題も、ぐうーんと広がりますよー。

『小網代の森の住人たち』

著者：ジボーリン菜穂子

イラスト：浪本晴美

写真：松下景太

表紙作品：高橋伸和

本届きました！
ありがとうございます！

とても素敵な本でした！
小網代の森の仲間たちに対する愛がキラキラしてて、
その様子がとても心地よいものでした。

私も行ってみたい～ いつかきっと行きます！

本当に良い本をありがとうございます！
しばし森の中を散歩した気分でした。
(長野県佐久市うえはらあきこさん)

なにこれ。やっばい。
おもしろいのに、
読み終わったら、物知りになった
達成感がある。

(横浜市 ITさん)

とっても楽しく読みました！
夢を見て、外国や昔の時代を訪ねている気分です。
でも、気がついたら、森の中にいるような。
なんだか幸せな気分です。

(逗子市 野内真理子さん)

読んでいて、なんだか心地いいので、
少しずつ、少しずつ、
読もうと、楽しみにしていたのですが、
あまりのおもしろさに、いっきに読んでしまいました。
しまった！もう読み終わってしまった！
しばらくたったら、また読み返してみようつもりです。
続編、いつでますか？

(横浜市 SKさん)



ご感想お待ちしております！



小網代の森の住人たち

著者 ジボーリン福島菜穂子

出版社 八坂書房

定価 1500円＋消費税75円＝1575円

刊行日 2011年6月25日

変形 A5判、144ページ ISBN978-4-89694-975-9

お求め方法：

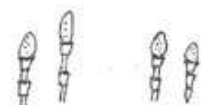
① 小網代の森と干潟を守る会より購入すると 消費税分サービス **なんと1500円に！**

- 直接販売 観察会等イベントの際にお求めください。
- 郵便振替 口座番号 00260-4-21569 (加入者名:小網代の森と干潟を守る会)
送料(1冊160円)を添えてお振込ください。送料を入れて1冊1660円になります。
振込手数料はご負担ください。おまけにポストカードをプレゼントいたします！

② 書店で購入・お取り寄せください。

③ アマゾン(Amazon.co.jp)他のオンライン書店でも購入できます。

お問合せ先:小網代の森と干潟を守る会 浪本 BYT00657@nifty.ne.jp



第二詩集「小網代の森を訪ねて」好評発売中

「息を呑むほど美しい小網代、総毛立つような残酷な小網代、心ほぐされる優しい小網代、、、ももっとも一緒に歩きたい森と干潟」と詩人は詠います。瑞々しい感性のままに、森と干潟を詩に切り取ってきました。挿絵を描いてくれたのは、小網代つうしんでおなじみの絵描き達。森と干潟がぎっしりと詰まった詩集です。



詩人 中井由実



詩集「小網代の森を訪ねて」

著者 詩 : 中井由実
挿絵: 鈴木清市 高橋伸和
浪本晴美 橋ちひろ

定価 700 円 (送料は別途 160 円)

ご購入: 郵便振替で定価+送料を下記口座へお振込みください。(振込手数料をご負担下さい)

口座: 00100-7-63549
加入者名 中井由実

お問い合わせ: メール
poem@koajiro-higata.com 中井 由実
電話 03-5397-1376
(留守番電話です)

■ フィールドアーティスト紹介

個性豊かな画家たちの眼を通すと、詩人の感性が目に見えてくるようです。描かれているのは森と干潟にある「癒し」なのかもしれません。



鈴木 清市

森と干潟の生き字引き、小網代のことならなんでもこの人に聞いてください。多芸多才の元花パト隊長。カメラもプロ級、油絵では受賞歴もある画伯です。

元祖フィールドアーティストの元道パト隊長。穏やかな人柄そのものの日本画は、主役に据えても脇役に置いても凛とした存在感を放ちます。



高橋 伸和



浪本 晴美

ひかえめで物静かながら、実はこの人がいないと森と干潟の活動は一步も前へ進めない。シンプルなラインで切り取る自然と人が、二次元世界に新たな生命を得て輝きます。

画家の中では一番の若手。小学校1年生で小網代デビュー、将来の夢は「画家か恐竜の博士になる」でした。小網代育ちのデザイナー&イラストレーターです。

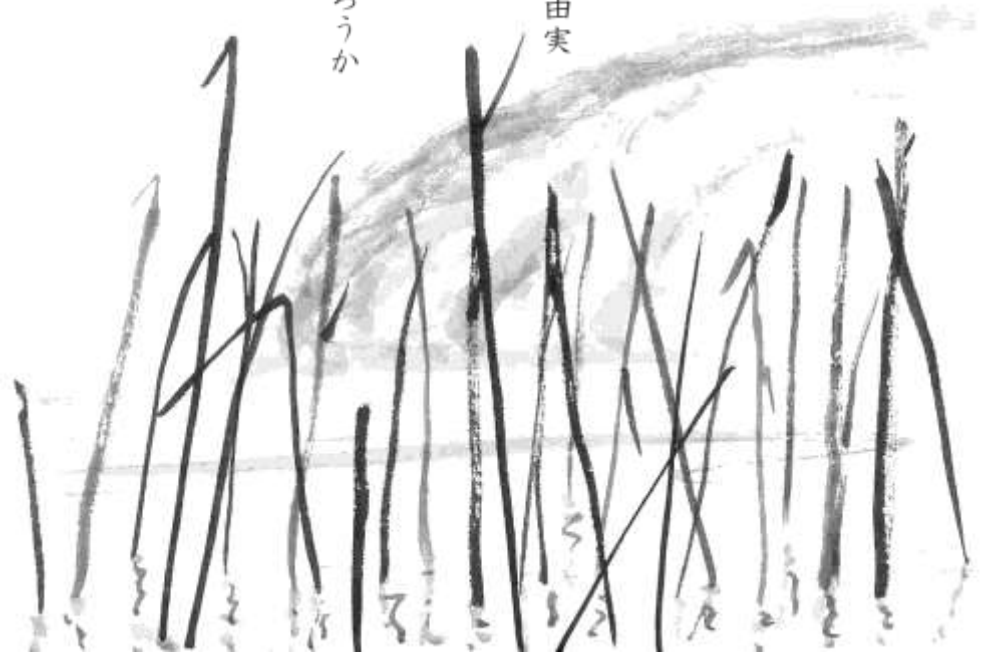


橋 ちひろ

雪の夢

中井由実

雪がふる
都心の町に雪がふる
小網代湾にも この雪はふっているだろうか
汽水がにじむ河口には
ふり積もることはないだろうけれど
ふわりと 雪が水の面に落ちたとき
するりと溶ける静かな音が
泥の中のチゴガニにも届くだろうか
その度に冷たくなる水の下で
白い爪をいっそう引き寄せるだろうか
細い脚を
ぎゅうっと縮こませたりしているだろうか



習い性

中井由実

起き上がれなくなった身体は
正方形の窓から外を見て
空は小網代につながっていると気づく
だから 心だけ
想いをめぐらす場所へ放つ
ひんやりした風にしたがい
京浜急行の線路をたどって三崎口駅へ
そこから まっしぐらに枯れアシの干潟
小網代湾の溼すれすれを回っていく
おかしなものだ
重力にしばられない存在の時ならば
いつも羨ましく見上げている鳶の高さから
漁港を
南の谷のくらがりを
見下ろすこともできるはずなのに

三浦半島の正月

◆ 三浦七福神

山の仲間15名と、1月7日(土)三浦七福神をバスを利用して巡り歩いて来ました。

8時47分、三浦海岸駅を三崎港行きバスで出発、折から黒雲が覆い珍しい降雪です。

南下浦町金田の園福寺では、七福神の土人形が人気です。寺に陶器教室の工房があり、各寺へ縁りの七福神人形を置いています。そこで可愛い干支の辰人形を購入。

小網代の森では、アオサギが50羽位の大群です。ウミウのフンが樹木を白くして目立ちました。ボラが盛んに海面上を跳ねています。白髭神社では、七福神クッキーを販売中。

長谷川造船さんと新年のご挨拶を交わしました。

各所で七福神めぐりのバス8台と遭遇、大型バスやマイクロバス利用と年配者が目立ちました。バスガイドに、三浦市の観光ボランティアが当たっていました。どのような資格の人たちでしょうか……。

徒歩で七福神めぐりの人たちは、白髭神社から初声町宮田の延壽寺へ向かうのに、戻ると遠回りになるので、森を抜けて引橋へでるようです。

16時まで行動し、歩数計で20000歩、12キロと初春にはかなりの強行でした。



◆ 三浦のチャッキラコ



三浦の小正月の年中行事「チャッキラコ」。1月15日これを見ないと新年を迎えた気分になりません。ユネスコの文化遺産へ指定後、大勢の人たちが来るようになりました。ただ、カメラマンのマナーは悪くなる一方です。

吉田三浦市長と小泉議員が挨拶をしました。

帰りに立ち寄った、岩浦の福寿寺。境内には故人となられた、北極単独行の植村直己さんと、南極初代越冬隊長の西堀栄三郎さんの石造の地球儀を形どった石碑がありました。お二人とは、同じ山の会員なのでお話を交わしたことがあります。

どのような事由で、建立されたのかご存じの方は教えてください……。

祖父川精治

第 108 回自然観察 & クリーンのお知らせ

うららかな春まっさかり、森の外周をのんびりと歩いて、干潟に出ましょう。
さて、どんな生き物に出会えるでしょうか、アカテガニはもう起き出してくるでしょうか……
いつもと一味ちがう小網代の風景もお楽しみに！

4月29日（日・祝）10時 三崎口駅集合 小雨実施
持ち物 長靴 弁当 飲み物
講師 矢部和弘 さん

三浦半島のイベント紹介

◆横須賀市自然・人文博物館

2月17日（金）A.Mさん、M.Mさん、MHのM'sトリオ（？）で、横須賀市自然・人文博物館の特別展「三浦半島の干潟」を見てきました。干潟の仕組みや組成から、房総半島、九州・琉球の干潟との比較、棲み暮らす生きものたちのようすまで、干潟を基礎からまるごと知ってしまおうという欲張りな展示です。小網代の干潟も、江奈湾、小田和湾、平潟湾、野島海岸と共に紹介されていました。標本と10分間のミニシアターを見くらべることで、生きもののようにすをじっくり観察することができます。見慣れたはずの干潟の生きものの、ユニークな動きに思わず見入ってしまいました。小網代干潟のチゴガニはスローモーションでハサミを振ってくれたりはしませんから。

帰りは少し回り道をして、中央公園からのオーシャンビューが素敵です。間近に猿島を望み遠くは房総半島まで、東京湾を一望。青い海、青い空に水平線、胸がすくような眺望は、横須賀ならではのですね。

特別展は3月25日まで開催されていますので、暖かい春の日におでかけになってはいかがでしょうか。

- ・横須賀市自然・人文博物館 9:00～17:00 月曜休館 入場無料（特別展も無料です）
- ・特別展 「三浦半島の干潟」 会期 1/28（土）～3/25（日）
http://www.museum.yokosuka.kanagawa.jp/event/frame_event.html
- ・交通アクセス
京急本線横須賀中央駅から徒歩10分、
横須賀線横須賀駅、衣笠駅から京浜急行バス「文化会館前」下車。徒歩5分

小網代 森と干潟つうしん NO.122 2012年3月17日発行

森も海も干潟も 奇跡の集水域生態系を未来の子どもたちへ

小網代の森と干潟を守る会

〒238-0111 神奈川県三浦市初声町下宮田 261-5

代表 高橋 伸和 E-mail: info@koajiro-higata.com

URL: <http://www.koajiro-higata.com>

年会費: 一般会員¥1000 賛助会員¥5000(7月～6月 入会金不要)

郵便振替 口座 00260-4-21569 加入者名 小網代の森と干潟を守る会

* 既に退会のご連絡をいただいた方にも年度末(6月末)までお届けしております